

「グローバル社会に生きる日本の若者 ～娘たちの会話を通して感じたこと～」

年の瀬も迫った今秋、秋の長雨のなか、世の中の関心は、総選挙の話題で埋め尽くされたのではないのでしょうか。結果はともかくとして、我が家でも二人(長女 20 歳大学生、二女 16 歳高校生)の娘も珍しく、選挙の話題で盛り上がり、思わず耳を傾けてしまいました。

二女「お姉ちゃん、選挙誰に入れるのか決めたの」

長女「え、選挙なんて興味ないから。」

二女「はあー、選挙権あるのに興味ないって、20 歳なのに最低だね。大学で、国際経済学とか社会保障のこととか勉強してるんでしょ。国の将来に関わる大事な選挙なのに関心がないって、信じられない。政治に関心を持たない大人は最低だよ。」

長女「ふうん、じゃあ、18 歳になったら、絶対選挙に行くんだね。」

二女「私は行かないよ。時間の無駄。自分の一票なんか、影響ないし。友達たちも、みんなそう言ってるよ。」

長女「何だ。結局、選挙に行かないのは同じじゃない。勝手だね。」

二女「そうだよ。私、自己中だもん。日本のこと好きじゃないし、外国の方が興味あるし、自分に関わることしか興味ないもん。だけど、大人は、政治・社会に関心を持たないのはおかしいし、許せない」

長女「えー、超わがままじゃない。」

二女「そうかなー、大人には責任があるじゃん、だから、興味がないって、自分たちの世代に年金・医療費などの社会保障のこととか、お年寄りの介護のこととかの負担を押し付けられたくないから。」

わがままで、身勝手な娘たちではあるが、その会話を聞いていると、二人の会話は現代の若者が置かれている状況において、冷静に状況をとらえた考えともいえる。幼稚な発想の部分もあるのも事実ではあるが、現代の若者に共通する思いであり、この国の問題を如実に表しているのではないのでしょうか。

世界の潮流として、自国中心主義の傾向が強まっている状況で、若い世代はむしろ、自分中心主義の傾向がより一層強くなっているのではないのでしょうか。

それは、グローバル化の波とともに、育ってきた若者たち、学校教育においても、グローバル化という言葉は、常にキーワードとして挙げられてきた世代です。

グローバルの視点で物事を考えることができるようにという教育の成果ともが考えられるが、一人ひとりの負担が増していくなかで、重い負担を避けるためにも、日本での生活にこ

だわらず、世界のなかで、生きていくことを選択する若者も、いるのではないかと危惧するところではあります。

一人でも多くの若者が、世界の中で自分を活かしていくという積極的な思いを抱いて、世界に羽ばたいてもらいたいものであります。

二人の娘の父親として、わが娘たちも、自分の夢の実現のため、大きな羽を広げて、世界に羽ばたいてもらいたいと願うのは、親のはかない夢でしょうか。